

主題名

よりよい友達関係

教材名

「大きな絵はがき」（東京書籍）

内容項目

B-9 『 友情、信頼 』

本単元で育成する資質・能力

思考・表現

協力・協働

1 令和5年10月24日（火） 第6校時**2 主題設定の理由**

- 本学級の児童は、男女関係なく協力しながら学習や活動することができている。しかし、友達のことを考えて行動するというよりは、自分中心の考えで行動している傾向がうかがえる。また、生活の中では、注意をし合う場面はあるが、相手の意図が理解できずトラブルになることも多々ある。このようなことから「友達」に対する理解や捉えが低いと考えられる。
- 事前のアンケートでは、「友達がいますか。」という質問に対して、15人全員が肯定的評価をした。また、「友達に対して気をつかうことがあるか。」という質問に対しては、学級の半分にあたる7人が「気をつかう時がある」と答えている。この結果から、友達であるにも関わらず、相手の顔色を伺って行動したり遠慮して何も伝えなかったりしている現状が見えてくる。本当の友達とは、どのような人のことをいうのか、この教材をもとに考えていきたい。
- 本主題は、4学年の指導内容B－（9）「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」をもとに設定したものである。この段階においては、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係が広がってくるほか、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しむようとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とのトラブルを引き起こすことも少なくない。
- そのため、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切となる。友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるようにしていきたい。
- また、友達のことを考えたり、友達のために思って忠告したりすることも時には必要であるという心情を育てていきたい。そうすることで、友達と信頼し合ったり、助け合ったりできる関係をより一層つくることができると考えている。
- 本教材は、料金不足の定形外郵便物をもらったひろ子が、送り主である転校した仲のよい友達の正子に料金不足のことを伝えるかどうか迷い葛藤した後、正子なら「きっとわかってくれる」と思い、手紙を書き始めるという内容である。児童がこれまでの友達との関わり方と、ひろ子と正子の関係を比較することで、友達として相手のことを考える大切さや本当の友達とはどのようなものかを考えることができる教材である。
- 指導に当たっては、導入で、「友達とはどんな人か。」「友達とよい関係でいるために、どんなことに気を付けているか。」を問い、現時点での友達との関係性や友達に対する捉えを振り返らせることで、ねらいとする道徳的価値を把握し課題を設定する。
- 展開前段では、母と兄との考えの違いを明確にし、料金不足のことを正子に伝えるか、伝えないかで迷っているひろ子に対して、自分だったらどうするかを決め、その考えを交流することで友達について多面的・多角的に考えさせる。また互いの立場に質問をし合うことで、友達の考えへの疑問や納得を深め、自分の考えを再構築できるようにする。

中心発問では、葛藤した後ひろ子が料金不足を伝えようとしたのはどんな思いからかを問うことで、友達とは、互いに理解し、信頼し、助け合う存在であることに気付かせ、相手のことを信頼して行動する道徳的実践意欲と態度を育てるという本時のねらいに迫っていく。また、視点を変えて自分が送り主の立場だった場合についても考えることで、本当の友達とは、相手のために言いにくいことでも遠慮なく言い合えたり、お互いに信頼し合えたりする関わりができる存在だと気付かせたい。

展開後段では、ひろ子と正子の友達関係のすばらしさに触れ、「本当の友達とは、どのような人だろう。」と問うことで、児童のもつ友達の概念を広げていきたい。終末の振り返りでは、本時の授業や自分の生活をしっかり見つめ、これまでの自分とこれからの友達との関わりについて考えたことを関連させながらまとめさせたい。

3 他の教育活動との関連

事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科 学び合い・教え合いをする活動を通して、分からない問題があれば友達同士進んで声をかけ合って聞いたり教えたりすることで友達の大切さを実感する。 ○児童会活動「いじめ撲滅キャンペーン」 いじめ撲滅について考えることを通して、身近に遊んでくれたり悩みを相談してくれたりする友達が、かけがえのない存在だと改めて感じさせる。
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ○「大きな絵はがき」 料金不足のことを伝えるかどうか迷い葛藤する気持ちに共感させたり、本当の友達について考えたりすることを通して、友達とは相手のために言いにくいことでも遠慮なく言い合えたり、お互いに信頼し合えたりする関わりができる存在だと気付かせ、友達のことを思って行動する道徳的実践意欲と態度を育てる。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事「学習発表会」 友達同士で練習したり聞き合ったりすることを通して、言いにくいことでも指摘し合って、クラス全体でよりよい発表ができるように取り組んでいく。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

友達からの絵はがきが、料金不足だったことを知らせるかどうか悩むひろ子の気持ちを考えることを通して、本当の友達とは、相手のために言いにくいことでも言い合えたり、お互いに信頼し合えたりする関わりができる存在だと気づき、相手のことを思って行動する道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 学習の流れ

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点(・) (☆評価の観点)
導入 (5分) 課題意識を持つ	1 課題意識を持つ。	◎あなたにとって「友達」とは、どんな人のことですか。 ・一緒にいると楽しい。 ・困っているときに助けてくれる。 ◎友達に気がつかってしまうことがありますか。 ・言いたいことがあっても言えない。 ・けんかした後は、気がつかってしまう。 ・意見が異なるとき。	・事前アンケートの結果に触れ、現時点での友達との関係性や友達に対する捉えをふり返らせることで、ねらいとする道徳的価値を把握し、課題を設定する。
		本当の「友だち」とは、どのような人だろうか。	
展開前段 (30分) 学びを深める	2 教材「大きな絵はがき」を読んで話し合う。 個人思考 ↓ 全体交流	◎ひろ子はお兄ちゃんとお母さんの考えを聞いて、迷っています。あなたがひろ子ならどうしますか。 伝えない(母) ・言ったら嫌われてしまうかもしれない。 ・これくらいの金額ならいわなくてもよい。 ・せっかく絵はがきを送ってくれたのに、正子に言ってしまうといやな気持ちになるかもしれないから。 伝える(兄) ・教えてあげなかったら、なんで教えてくれなかったのと思うかもしれない。 ・もし言わなかったら、次もだれかに同じことをするかもしれない。 ・自分だったら友だちに教えてほしいと思うから。 ・正子はそんなことで、ひろ子のことを嫌いになるような人ではないと信じているから。	・母と兄の考えの違いを明確にして、自分ならどうするか考えさせ、交流する。 ・母と兄の考えがどちらも正子のことを考えているものだと押さえることで、正解を求めるものにならないように配慮する。 ・それぞれの立場は何を大切にしているのかキーワードにしてまとめさせる。 ☆正子に対してどのように対応することが、友達としてのよい関わり方なのか、他の人の多様な考えを交流し、自分との関わりで考えながら、よりよい友達との関係がについて考えることができる。(発言)

	個人思考 ↓ グループトーク ↓ 全体交流	◎それでも、ひろ子が正子に料金不足を伝えようとしたのはどんな思いからでしょう。 ・正子さんならきっと分かってくれる。 ・今後、正さんが困らないように言ってあげる方がいいと思ったから。 ・相手を信頼して言ってあげようと思ったから。 ○「ひろ子」と「正子」は本当の友達と言えますか。 ・離れていても信頼し合っているから本当の友達と言える。 ・相手が困ることを進んで教えてあげているから本当の友達。	☆ひろ子と正子の関わり方について考えることを通して、本当の友達の在り方について考えを深めている。 (ノート・発言)
展開後段 (5分) 学習したことを振り返る	3 本時のまとめをする。 「本当の友だち」とは… <u>相手のことをしっかり考える。</u> <u>言いにくいこともしっかりと伝える。</u> <u>伝えた自分のことを分かってくれると信じる。</u>		・導入で出し合った「友達とは」を、もう一度再考して、アンケートでは出ていない友達について気付かせる。
終末 (5分)	4 今までの自分を振り返る。	○今日の学習を通して、本当の友達であるためには、どんなことが大切だと思いましたか。これまでのこと、これからのことを踏まえて振り返りましょう。	・これまでの自分を振り返り、本当の友達でい続けるために、どんなことを大切にしていけないといけないかを考えさせる。

5 板書計画

